炭に優るのみならず、更に世界に聲名を博せる瑞典炭に優り、然して其の硬度は低燐銑鐵製造用に適せしむることを得るものとす。

現時に於ける樺太紙料諸製造會社の資料たる木材の利用率は五割乃至六割と稱せらる、故に其の樹冠材の校椏梢株等を加算すれは五六千萬貫の椴松及蝦夷松材は低燐木炭製造に用ゐ難きにあらさるも、然も木炭の產額は五百萬貫を超ゑ難かる可く、且又た炭質の軟鬆なる缺點を有す、次に內地產針葉樹炭は材價の騰貴と共に其の產額を減し、且つ各所に散するを以て用ゐて大工業の資料となし難きの憾あり、臺灣產濶葉樹は之に反して一所に集積すと雖も木材利用の趨勢は之を驅つて次第に木工界に赴かしむへし、茲に於てか低燐銑鐵製造用木炭としては、其の含有燐量尠く硬度適當なる南洋產に着眼するを時宜に適するものとなす可きなり、然も之を實行せんとせは尙ほ其の森林を實査し他に用途尠くして蓄積の大なる樹種に就て試驗を擧行し、徐ろに劃策す可きや論なきものとす。

製鐵業の將來に就ての希望

俵　國　一

歐洲大戰の影響を受け、我が製鐵事業は俄に勃興した、斯く製鐵事業の興起は我が國防の上より、將に工業の基礎獨立の上より、寔に喜ぶべき現象であるが、偖翻つて我が製鐵業の興つた原因を考へて見ると、中には內地に於て需要する鐵鋼は、內地に於て供給し國家の獨立に貢獻せんとする高尙なる精神を以て企業したものもあらう、併し他には主として鐵鋼需要の關係を失へる結果、市價の著しく暴騰したるに刺戟され、競ふて此事業に着手したものもある、夫が何れの原因にせよ兎に角、斯く製鐵

業の盛況を見て鐵鋼自給の大目的に迫つたことは大に祝福すべきことである、諸製鐵業者の努力を多とせねばならぬ、尙其副產物として內地に於ける、今日迄未發見の儘放棄されし各所の製鐵原料が採掘され又は利用された、將來とても重なる製鐵事業の原料は之を海外に求むることであるが、又內地の原料に就ても十分に研究を續けなければならぬ。

如上の理由の下に勃興した我製鐵業が、戰後果して如何なる經過を取るべきか、今に於て斯くなるべしと豫斷することは頗る六ケしき問題である、早くから企業した人で、時局中相當の利益を贏得した側は兎も角も、昨今事業に着手し、若くは之より事業を開拓して利益を擧げんとする工場の運命は、鐵價の下落により、前途を悲觀せざるを得ないので、頗る氣の毒の情に堪へない、中には大損害を受けて、或は工場閉鎖といふ如き哀むべき場合に遭遇することなしとも限らない、然らば其悲運を對岸の火災視して傍觀すべきかといふに、我邦は戰時中鐵材不足の爲め幾多苦き經驗を嘗めたのであるから、內地の製鐵業は是非共將來も成立させたい、即ち何等かの方法を講じて、一時の急を救ひ將來の發展を希望せざるを得ない。

然らば之れが救濟方法如何といふに、或は相當の關稅引上げを行ひ之を保護すべしと唱ふるものもあり、或は保護金を與へて事業を援助すべしといふものもある、而して後者の保護金給與に就ては、生產品に對し保護金を與ふべしといふものと、資本に對し相當の期間利子補給をなすべしといふものがある、又一說として當分の間は鐵價を管理し、輸入を制限し場合に依りては之を禁止することもせよ、又官設製鐵所を中心として製鐵業者の一大トラストを組織せしめ、合同をなし外品の壓迫に抗すべしといふものもある、此等を採りて考ふれば、何れも一得一失あるを免れぬ、今は其の孰れかを採用して實行すべき時機にある、否此實施は焦眉の急である、然るに之が利害得失を研究すべき機關すら今日迄設けられないのは、遺憾千萬と言はざるを得ない、併し一般の唱へらるゝ如く、今日適當なる

機關を設けて政府が十分なる保護を與へ、國内の製鐵業を盛ならしむることに致さなくてはならぬ、又必ず左樣なるであらう、併し之と同時に他方に於ては之に應ずべき覺悟を、我製鐵業に望まざるを得ない。

戰爭中鐵暴騰の時代には多少品質の劣等なるものにても、之を販賣するに困難を感ぜず、需要者も品物拂底のため粗惡と知りつゝも、之を購入するより外なく、從つて高價にもせよ需給の調節を得たが、今後鐵の市價下落するに於ては、優良品でも買控へをするといふ傾向になるから、餘程此點に考へ及ぼさないといかぬ、今本邦に於ける戰時中の鐵生產品を見ると、品質は決して良くなつて居らぬ、技術が寧ろ劣つて居る傾がある、戰前よりも粗惡になつて居る觀がある、併し之れは餘儀ない事である、何となれば俄に事業が擴張され、新に事業を開始するものがあるので、熟練の技術者は引張り凧となつて四散する、斯くて熟練の技術者を招ぎ得た工場では大變都合がいゝ樣なものゝ、其下に働く人は素人のみであり、奪ひ去られた方の工場でも不揃なものゝみてといふ譯で、新舊工場ともに不熟練な技術者職工の寄り合ひとなり、而も多量に生產せんとするので、品質の惡くなるのは止むを得ない、斯くては何れかの方法に依り保護するとしても、惡い製品しか造らないものを保護するといふは出來ぬのみならず、反て之等を保護する事は危險千萬である、故に一方政府は保護方法を講ずると共に、他方當業者は此際緊褌一番、製鐵の品質改良に向つて、眞面目に努力しなければならぬ、戰時中に於ても技術研究の必要は、口にこそ唱へられたるも、實際は種々の事情のために實行されなかつたのである、鐵の價格が下落するに當り、外國品との競爭上技術を研きて優良な品を市場に提供せよといふ注文は、當業者に取り頗る苦痛であらふが、其處を忍んで一時の難關を乘り切る覺悟がなくては、鐵鋼自給自足のため製鐵業を企てた甲斐もなく、初一念に背くものと言はざるを得ない、技術を研き良品を提供せんとするには、製鐵業當事者自ら率先して從業員の考を其方に仕向ける樣にしなければならぬ、

即ち主腦者も從業員も協力一致して考へを此に及ぼす事が必要であると同時に、政府も製鐵業を保護する上に之を監督して强制するがよいと思ふ、恰も生絲檢査所の如き生産品に就ての檢定機關を設くるも一方法であり、又農家に於ける農藝教師の如く統一ある機關を設けて、各工場を巡回せしめ技術者に教授するも一案であり。尙漆業者が工業試驗所の研究を待ち改良發達を圖りつゝあるも、亦參考に資すべき方法であらう、今迄政府では農業とか生絲とかに就ては、斯くの如く改良保護に力めつゝあつたのであるから、製鐵に對しても國家自衞の上より、政府自ら進んで改良の方法を講ずる施設をなすべきものである、兎に角要は政府保護の下に優良品を生産せしめる事である、即ち政府に於ても民間に於ても製鐵技術に關する研究を試み、之を綜合統一して技術の向上を期すると同時に、技術者養成に力を盡す事が刻下の急務である、若し之を實行することを得るならば、强ち製鐵業の前途も悲觀すべきものではない。（大正八年一月稿）